

ばらとゆでん

茨戸油田

茨戸油田は、石狩市生振～札幌市茨戸地区で昭和33（1958）年から昭和46（1971）年まで操業していた油田。累計生産量は原油84,702kL、ガス8,742,000m³。

昭和31（1956）年に石油資源開発株式会社により、茨戸地区の集油構造（背斜構造）と油層およびガス層が確認されました。その後、昭和33（1958）年に深度約400mにおいて有力な油層が見つかり、本格的な油田開発がスタートしました。

最盛期には、油田と国鉄（現JR）篠路駅しのろの間にパイプラインが敷設され、そこから国鉄のタンク車で室蘭へ輸送されて精油されました。やがて、道内産油量の91%を占めるまでになります。ガスは札幌市街地間16kmの送ガス管により北海道ガスの工場まで運ばれて精製され、都市ガスとして約3,000軒に供給されました。

昭和36（1961）年までに油井は31本掘削され、茨戸川をはさみ、石狩市生振と札幌市茨戸に跨がる南北2.6km、東西0.5kmの油田となり、道内では石狩油田に次ぐ史上2番目（当時）の累計産油量を記録しました。

しかし、その後生産量は年を追って減少。昭和45（1970）年にはガス、翌年には原油の生産を中止。茨戸油田は14年間の歴史を閉じました。茨戸川沿岸の油井跡周辺では、現在でも石油のわずかな滲みだしが見られます。

（安田秀司）



茨戸油田操業時の油井(井)
(石油資源開発1965を参考に作図)

- (1) 石油資源開発株式会社札幌鉱業所（1965）茨戸油田史、石油資源開発株式会社札幌鉱業所。
- (2) 石狩町（1991）石狩町誌中巻2、石狩町。
- (3) 岩本龍夫（2005）石狩油田史—その開発・技術・生活について—、岩本龍夫。
- (4) 札幌市北区役所（2007）噴き出した太古の恵み—茨戸油田、エピソード・北区、札幌市北区役所。